

館長講話

「芸術」の陰謀

美人画の大衆戦略

藍摺絵の創始者：溪斎英泉

武士の子として生まれた溪斎英泉は、若くして妖艶な美人大首絵で人気を得、藍一色の濃淡をいかした藍摺絵(あいずりえ)を生み出したことでも知られます。彼の多様な作品の中には、なぜか初摺と後摺でモデル違う美人画も。庶民の美意識に呼応したその独創の世界を紹介します。



溪斎英泉《吉原美人 八瀬乃しのぶ 扇屋内朝妻》



溪斎英泉《湯がえり》

日時

9.16/30

いずれも土曜日

14:00-15:00 同内容

会場

ニセコ・有島記念館

聴講無料

THE BLUE EXHIBITION

2023/8/27(日)～10/9(月・祝)

有島記念館 (観覧無料)

お話：寺嶋弘道(有島記念館 館長)

1955年滝川生まれ。1978年金沢美術工芸大学卒業後、道立の三岸好太郎美術館、近代美術館、帯広美術館、文学館、釧路芸術館などに勤務。近代美術館では歌川国貞・溪斎英泉など浮世絵コレクションの展示公開を担当。近代美術館学芸副館長、本郷新記念札幌彫刻美術館館長を経て2021年から現職。

主催：有島記念館 〒048-1531 虻田郡ニセコ町有島57番地 tel.0136-44-3245 fax.0136-55-8484